

## 第7回みどりの食料システム戦略に係る意見交換会 (生産者(畜産))

日時：令和3年2月5日(金) 10:00~11:30

場所：オンライン開催

参加者：別紙参照

### 【先方コメント概要】

- 本戦略の取組に関しては大いに進めていただきたい。
- 本戦略の取組を進めるポイントはコミュニケーション及び広報活動。いかに皆に知ってもらい、皆で取り組むということに持っていけるかが鍵。
- 本戦略の取組は地方だからこそ可能であり、地方が頑張ること  
で都心部を助けるものだと感じている。
- 農家ごとに堆肥の好みがある。耕種農家としても儲けられない  
と耕畜連携の取組を継続できず、協力を得ることも難しいため、  
コストや収量などのデータを農家と収集している。
- 日本で有機畜産が増えない理由の1つは、飼料確保が難しいた  
め。現状は不足分を有機 JAS 飼料のとうもろこし、大豆かすの輸  
入に頼っているが、国産飼料に切り替えたいと思っている。
- 有機面積拡大のネックは消費であり、消費拡大の課題は価格で  
ある。価格差が埋まらなければ消費拡大は難しい。目標策定時に  
は価格差への政策支援も打ち出してほしい。
- EU では、慣行と有機製品の価格差が1~2割であり、コストの  
かかり増しの大部分を国の施策で支援していると聞く。
- 数値目標に関しては、達成できないことはないと思う。
- 有機農産物のような農薬を減らした生産物を食べたいという人  
は確実に増えているので、有機農業面積の25%拡大は可能ではな

いか。

- 有機農業生産物を食べる人、作る人は増えてくると思うので、有機面積 25%への拡大の目標にも進んでいかなければならない。
- 現実には有機栽培が拡大可能かという点難しいが、「循環率」のような新しい定義を出して推進するのも面白いかと思う。
- 有機酪農の ICT 活用において効果が大いなのは、GPS の自動操舵。デントコーンの播種や除草に活用することで、労力も下がり、単収及び作業精度が向上する。
- 現状ではかなりの費用がかかるが、広い放牧地での牛の位置確認にスマート農業を活用することで、瞬時の位置確認を可能とし、大幅な時間節約を実現した。
- 農水省と文科省が連携し、次世代の子どもたちに現状や将来を考えさせるような教育を行うことが重要。
- 限られた人材での土地利用やどのように効率化を図るかは中山間地域では難しい問題。
- WCS の活用や、わらと堆肥の交換など中山間地域でも行える土地利用を一番に考えながら進めていただきたい。
- 牛糞、豚糞、鶏糞などを混合する堆肥センター拠点を作るとともに、畜産農家が有償で散布作業を行えるような仕組みづくりが有効。

(以上)

(別紙)

第7回みどりの食料システム戦略に係る意見交換会  
(生産者(畜産))  
出席者一覧

(有) 石川ファーム  
いしかわ けんいち  
石川 賢一 代表取締役

(有) NOUDA  
のうだ あきとよ  
納田 明豊 代表取締役

(有) トールファーム  
たがわ よしお  
田川 吉男 代表取締役

(農) 狩尾牧場  
なかがわ としみ  
中川 利美 理事長

(株) さかうえ  
さかうえ たかし  
坂上 隆 代表取締役